

イグチ目シヨウロ科

シヨウロ

Rhizopogon roseolus (Corda) Th. Fries, 1854

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 18

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内に広く分布が認められているが、各分布域が狭小である。県内ではおもに海岸クロマツ林に分布が認められているが、クロマツ林の減少による分布域の狭小化、さらに本種は優秀な食用きのこであるため、採取により子実体発生量が年々減少しており、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は地中あるいは半地中に生じ、南西諸島から類球形で、径0.5-3.5cm。表面は白色から淡紫褐色を呈し、傷付けると淡赤紫色に変色する。内部は幼時白色で芳香臭があるが、

あるが、胞子の形成とともに徐々に黄土色からオリーブ色となり、成熟すると不快臭がある。国内ではおもに海岸クロマツ林に分布し、子実体は秋から翌年の春にかけてクロマツ樹下に発生する。食用。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部では島根半島西岸部、県西部では江の川および高津川河口で、いずれも比較的広域に生育した海岸クロマツ林において分布が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるクロマツ(林)の衰退、採取圧。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	○	○																○			

イグチ目シヨウロ科

ホンシヨウロ

Rhizopogon luteolus Fries, 1817

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

【選定理由】

国内では本州以南においてまれに分布が認められているが、各々の分布地における子実体発生域は狭小である。県内では海岸クロマツ林の限られた地域にのみ分布が確認されているが、クロマツ林の衰退により、県内での絶滅が危惧される。

【概要】

子実体は地中あるいは半地中に生じ、南西諸島から類球形で、径1-3cm。表面は白色から淡黄褐色を呈し、傷付けても淡赤紫色に変色しないが、水酸化カリウム水

溶液で赤紫色に変色する。内部は淡黄色から黄土色を呈し、不快臭がある。国内ではおもに海岸クロマツ林に分布するが、分布域は限られている。子実体は秋から翌年の春にかけてクロマツの樹下に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部の海岸に分布するクロマツ林の限られた地域においてのみ分布が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるクロマツ(林)の衰退。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																		○			

ベニタケ目ニンギョウタケモドキ科

ヌメリアイタケ

Albatrellus yasudae (Lloyd) Pouzar, 1972

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

日本固有種であり、環境省の第4次レッドデータリスト(2012)では絶滅危惧Ⅱとして選定されている。北海道、本州、四国においてまれに分布が確認されている。県内では限られた地域においてのみ分布する。

【概要】

子実体は一年生で、傘と柄からなる。傘は柄に長く垂生し、丸山型で後に平らに開き、ほぼ円形で、径2-8cm。傘表面は濃青藍色を呈し、粘性を帯びるが、乾くと光沢を呈す。傘裏面は白色で、管孔状。柄は白色、中心

生から偏心生で、長さ3-6cm、径5-12mm。肉は白色で、やや苦みがある。

国内ではマツを含む雑木林の地上に発生する。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部飯南町のアカマツと広葉樹が混交する林地においてのみ本種子実体の発生が確認されているが、他の地域の分布状況については不明である。

【存続を脅かす原因】

生育域の狭小化、共生関係にあるアカマツ(林)の衰退。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

菌類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足